

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価計画書】**

堺市立浜寺小学校
校長 島原 宏文

中学校区におけるめざす子ども像
①学びの基礎をつくり、自分らしい学びを深めるこども ②他者と協力し、自他の違いを認め、多様性を尊重することも ③運動する習慣・意欲・能力を高め、運動に親しむこども

令和7度 重点目標
○「いきいきとしている学校『こどもも教職員も』」の具現化に向け、こども一人ひとりとはもとより教職員も含めて「居場所と出番」が確保できるように努める。
○知(基礎学力を土台とした学力向上)・徳(学びを支える心)・体(健康維持のため体を動かす喜びの体感)のバランスのとれた質の高い教育を推進する中で、教員の指導力向上をめざす。
○地域をキャンパスとしたり、地域人材を活用したりして、地域共育学校の取り組みを推進し、「地域に生き、やがては地域に貢献できる人」の素地をつくる。

「確かな学び」の現状	「豊かな心・健やかな体」の現状
●令和6年度の全国学力テストでは、算数の平均正答率が大阪府と同等で国語・理科・わくわくは下回っている。	●校舎改修工事の為、環境が整っていない中での体育指導の充実が難しく、運動好きな児童と苦手な児童の二極化が課題である。そのような中、体育授業を充実し体力向上をめざすことが大切となる。
●どの教科も標準偏差が大きくなり、学力の二極化が見られる。特に中上位層が少ないことが課題である。	●長時間のスマートフォンやゲームの使用等により、睡眠時間が短くなったり運動不足になったりする児童が見られる。
●学校へ行くのは楽しいと思っている児童は多いが主体性が高まっている児童とそうでない児童との二極化が見られる。	

	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (7月)		達成状況 (年度末)			
									自己評価2月		学校関係者評価3月	
確かな学び	学力向上・授業改善	基礎基本の習得に向け赤ペン先生や地域人材も活用し、学びの土台づくりを行う。「いきいきと学ぶ子」の育成のため、こどもたちが「知りたい! 伝え合いたい!」と意識が高まるよう授業改善を行う。	○こども自身が具体的なことから問題意識を持ち「いきいきと学ぶ授業」につながるような課題設定について教材研究を深める。	・具体的な課題設定の内容とそれに対するこどもの取組の様子やノート、成果物 ・研究授業時における協議内容	こどもの様子やノート、成果物 本プラン状況確認時	適宜 9・1月	A	子どもにとって身近なこと、自分事として考えられること、子どもが興味を持てること、子どもにとって役に立つことなど、具体的な課題設定ができている。設定しにくい教科や教材について、さらに教材研究が必要。「いきいきと学んでいる姿」「考え抜いている姿」を「強い思いのある目標に向かって、何度も試行錯誤する姿」と整理。2学期末時点でのめざす姿も各学年で設定。研究授業では、当日のこどもの姿の見取りから、協議の柱に沿って研究協議を実施している。				
			●★こどもの主体性の育成をめざして、こども自身が問い(課題)を設定し、解決する過程で考え抜くことにより思考力を高める。	・月1回、学年の取り組みを振り返って、成果と課題を確認し、研究を積み重ねる。 ・こどもが考え抜く授業実践を週1回以上、行う。	学年の取り組み進捗状況 考え抜いた実践の回数	適宜 9・1月	B	月1回学年取組シートへ成果・課題・取組等入力し、研修部で報告・共有している。「考え抜く」ための「考えたい」「考えてみよう」を大切に進めている。今後考えられたか振り返る時間を大切にしていく。1学期は週に1回考え抜く授業実践に取り組めなかったというクラスもあり、授業公開も意識しながら継続実践する。				
			○各教員が指導力を高めることが、こどもの学力向上に寄与するという考えから、得意分野を各教員がさらに伸ばすとともに、お互いが聞き合い、困り感を伝え合えるような補完関係を構築する。	・各教員による得意分野の研究実績 ・月1回以上は他教員からの刺激で改善しようする	改善した授業の回数 こどもの様子 本プラン状況確認時	適宜 9・1月	A	研究授業・道徳公開授業・SU研(体育・国語・学級経営・SSW不登校事例研修・家庭科防災バック・プログラミング)の研修を実施。放課後に授業での困り感を話し合ったり、アドバイスし合ったりしている。				
		学習習慣を定着させる一方策として、家庭での習慣づくりを行い、自ら学ぶ子の育成をめざす。	○毎日の宿題はもとより、読書を含めた家庭学習の定着を確かなものとするため、自主学習ノートの活用について研究を深める。 ○自主学習の必要性について自主学習コンテスト等によるこどもと保護者の意識を引き続き高める。	・毎日の宿題について教員が確認し、100%提出をめざす。 ・自主学習について、自らが計画を立て学習しているようなこどもの育成をめざす ・学校、学年、クラスでの自主学習が高まるような取組を継続推進する	自主学習ノートの内容 本プラン状況確認時	適宜 9・1月	B	自主学習のメニュー紹介や自主学習を見合う機会の工夫(掲示等)に取り組んでいる。自主学習コンテストを続けてきているので、自主学習のレベルがどんどん上がっている。毎日の宿題の提出率は100%達成をめざせている(朝忘れてもその日の内に提出)。				

豊かな心	人権教育・生徒指導	いじめのない「笑顔あふれる学校」をめざし、他者理解を進めながら自尊感情を高める取組を行うことで、お互いに認め合える人間関係作りを構築する。 そのために、道徳も含めて、障害者理解教育等を中心とした人権教育を推進するとともに、こども自らが考え実現する取組を効果的に行う。	●特別活動はもとより授業の場で、「居場所と出番」を確保する。 ○他者理解を進めながら自尊感情を高める取組を推進し、居心地のよい集団づくりを進める。いじめの早期発見と解決に向けて、情報モラル教育を推進し組織的に取り組む。	・授業を含めての「居場所と出番」の確保 ・いじめを含めた問題行動の未然防止の取組の推進 ・発覚した場合、早期解決に向けた対策会議の設置と解消に向けての取組 ・情報モラル教育推進の一側面として、タブレットの使用時の適切な指導	各クラス等の取組 児童理解シート 職員会議 タブレット使用の実態 本プラン状況確認時	適宜 毎月 9・1月	B	日々「居場所と出番」を考えて特別活動や授業の中で実践がされている。不登校ケース会議、いじめ防止対策基本方針の改定、いじめ未然防止研修を実施。				
			○浜寺っ子の決まり等をつくるためのこども自らが参画した仕組みづくり ○挨拶のあり方や学校への持ち物について、みんなが楽しく過ごせるルールなどについてこども自らが参画し、その意味を理解するとともに、ルールを守ろうとする規範意識を醸成させる。	・児童会や学年、学級の中で、ルールづくりに関する話し合いを行い、実践した回数及びその効果	本プラン状況確認時 実施後のこどもの実態観察	適宜 9・1月	A	高学年が児童会や委員会できめたルールを意識して、学校生活を送っている児童が多い。自分たちできめたクラスのルールも守ることができている。決まりに関するアンケートをもとに児童会を中心に現在は体育館シューズの話を進めている。				
			○お互いを認め合える集団づくり 特別活動や生活科・総合的な学習の時間等活動や道徳をととしてより良い集団づくりを行う。 (具体的な取組) ・はまでらっ子グループ ・異学年交流 ・障害者理解教育 ・国際理解教育 ・平和教育・道徳等	・こどもが企画したはまでらっ子グループの実施回数やその内容 ・各学年における異学年交流の計画的な実施 ・障害者理解教育の推進 ・国際理解教育の推進 ・平和教育の推進 ・考え議論する道徳教育の推進	本プラン状況確認時 実施後のこどもの実態観察	適宜 9・1月	A	えがお学級は1年生と土曜参観にて国際理解教育の取組を実施。支援学級担任による障害理解の授業（1・3・5年実施済み）や道徳の研究授業（6年）を実施。支援学級のこどもの通常学級での居場所づくりを引き続き行う。はまGは6年生が計画、リーダーとしてがんばる姿やみんなで楽しむ姿が見られた。 校外学習や学校探検（1・2年）、体力テスト・清掃（高学年と低学年）などでも異学年が交流している。平和教育は映像や絵本等を見ながら戦争・平和について考えた。				
健康な身体づくり 健やかな体	健康な身体づくり	自己の健康に関心をもち運動に親しむこどもを育成する。	●運動に親しむために授業において個に応じた場の設定を工夫し、体力づくりを推進する。	・体育実技研修を行うなどして、日々の体育の授業における体力向上の取組の研究と充実	本プラン進捗状況時 ・保体給委員会での実践の持ち寄りとその公開の内容及び回数	9・1月	B	体育実技研修（授業の基礎基本・水泳）により、授業の進め方や個に応じた場づくり、整列のさせ方等を学ぶことで、体育の授業のイメージが持ちやすくなった。また、5・6年生は学校独自に体育を教科担任制で授業を行うことで教材研究の確保に努めた。				
			○体育的行事を教員がこどもと共にイベント化することにより、こども自身が体力向上に対する意識と技能を高める。	・浜リンピックや縄跳び大会の実施状況	実施回数 本プラン進捗状況時	9・1月	A	浜リンピック2年目で、去年の記録をより意識して前向きに取り組む姿が見られた。2学期以降、縄跳び大会など新たなイベントも計画予定。意識や技能向上に継向けて継続的取組を工夫する。				
			○体育委員会などの場において、年間を通じてこども自ら体力向上に向けた取組を考え、体力づくりの大切さを意識できるようにする。	・体育委員会や各クラス等で実施した取組の実施回数	実施回数 本プラン進捗状況時	9・1月	B	休み時間は学年でまわってくる体育館での遊びを楽しみにしている。体を動かす機会が少ないためか、体力が持続しない児童が多く、けがも目立つ。休み時間に体育館にて体育委員会と各クラス全体で体力向上の遊び「こそこそおにご」「玉ラトゥーン」				
			○本校における保健課題に応じた保健指導を計画的に行う。 ・食育・睡眠教育の推進	検診時の保健指導・保健委員による啓発	実施回数 本プラン進捗状況時	9・1月	A	食育や歯の衛生指導など、子どもに分かりやすく、また計画的に行われている。校長による「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を朝礼時や学校通信で実施。				

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）